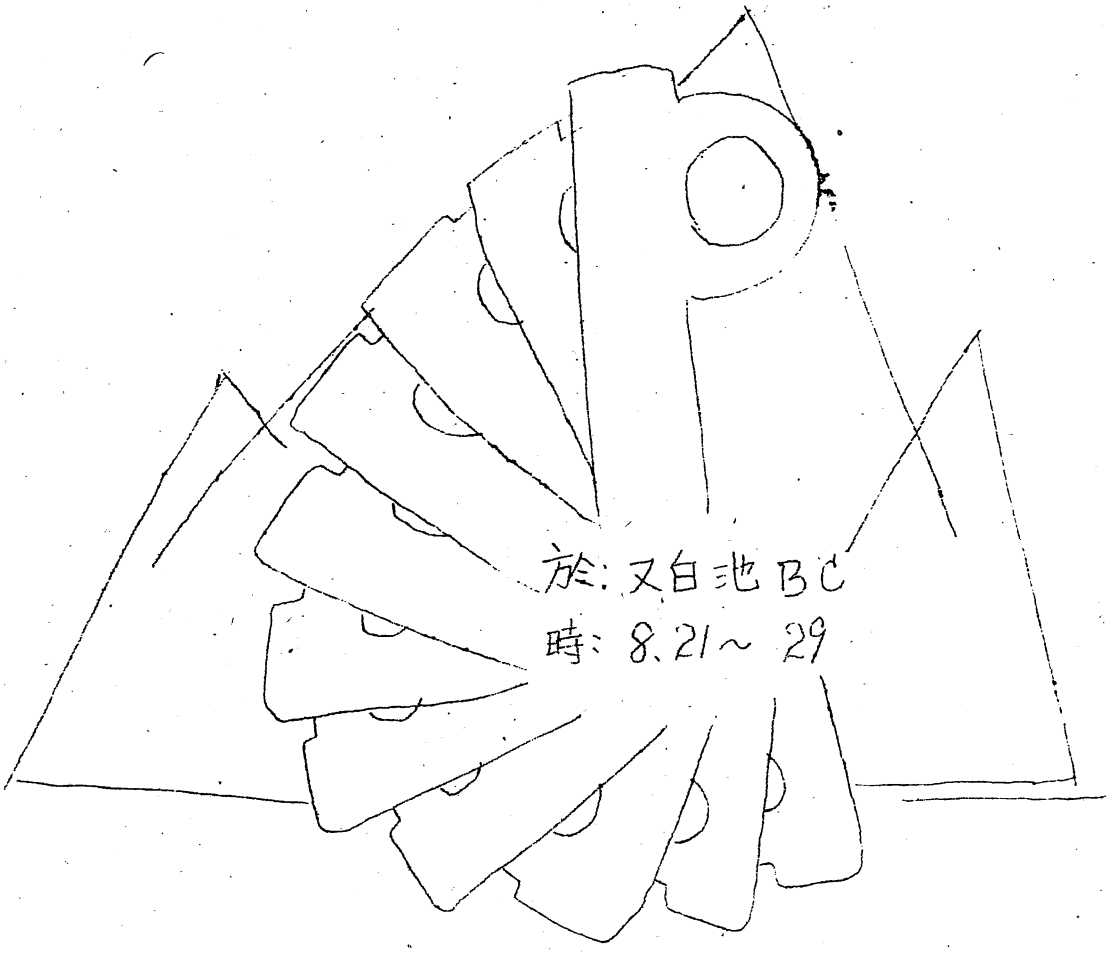
'75

岩場定着合宿
報告書



信州大学山岳会
伊那松本山岳部

〔合宿を終えて〕

14年振りの又白北BCの岩場定着合宿という事で 戸惑う事も多かったがそれ以上に気になったのは合宿としての雰囲気に欠けていたのではないかと云う事である。年3回の合宿の持つ意義が1人1人に自覚されていない。個人山行と同じ意識でみている者が多い様に思われた。訓練山行の中でも より自然にというのは前から云われているが、それが安易な方に流れた様に思う。そう云う意味でL会の取組の甘さは指摘される。

今回、穂高周辺で行ない、その長所、短所を体で感じた事と思う。来年の合宿に生かされればそれは1つの成果であろう。

以下主な各項、L会の検討を概略してみるが、各自よく考え、ここだけのものに終わらしてもらいたくない。

〔行動〕 就業2日間。内容についてはほぼ実施できた。登攀については充分できたと思うが、雪上技術、fix等は不足であった。これはプレ冬山への課題となる。ビバーク隊を合宿の中で出した事は問題はないが、実施方法、特に意図を明確にしなかった事は再考の余地がある。

〔1年目〕 特に安定感に欠ける。雪上技術は 下り、STOP fix通過は(特に)問題なし。

登攀に関して、ザイル操作(結ぶ確保etc)は1応できているが登り方に関してはまだまだ不安が残る。生活技術全般にザックがやる事はわかってきていると思う。

〔2年目〕 2年目が合宿に参加しないのはナンセンスである。

新人合宿に比べ向上はあるがまだ2年目として自覚に欠ける。次の行動等を考え方から1年目を指導していく姿勢に欠ける。雪上技術1応できるが不安定、fixの張り方も結局1回しかやらず下界での練習が要求される。岩登りに関しては、下での研究不足であり、ルートファインディングに不安が残る。登ったルートに関して各自のこれからの勉強の仕方により有意義なものとなると思う。

〔3年目以上〕 L会メンバーの事前での具体的打ち合わせが行なわれていなかったのは問題である。よく動いてくれたが 1・2年目への指導にもっと強いものがあってもよかった。

CL：吉田秀樹

期間　S50年8月21日 ～ S50年8月29日

メンバー及び各係

C.L. 吉田秀樹 (L4IV)　S.L. 福島渉・須貝志明 (A4IV) (A3III)

会計，渉外：荷田卓穂 (A2II)

装備：藤元治朗 (M3II) 二俣勇司 (L1II)
細野典明 (A1I) 片山博彦 (A1I)
清川雅夫 (S1I)

Essen 左山幹雄 (S3II) 下田章 (A1I)

記録 師田信人 (M2II) 梶巻重幸 (L1I)

気象 岡本真一 (A.1II)

医療 井上雅子 (A3II)

以上参加者 4年×2 3年×1 2年×7 1年×5
計15名

☆注 L－人文学部
S－理学部
A－農学部
M－医学部
数字は学年 ローマ数字は部歴を表わす

8月21日　晴のち曇のち小雨

松本(5:00) — ST(7:00) — 徳沢園(8:15) —
松高尾根取付(9:55) — 奥又白池(12:20〜13:10)

松本から上高地まで 約1:30の間 バスにゆられ また朝食の 1人500mlの牛乳のために及 上高地に到くそうそうトイレへ駆け込む者多し ST から 又白池までは各自自由に 1時までに到着せよとのこと (ST から 又白池の time は 我々の一団 party のもの) 徳沢園と松高尾根の取付で大休止のち 熊本 一隊は松高ルンゼを登る 途中 早大パーティーがザイルを張っているのに会い話を聞くと 法大の人が骨折し(明大ルートで) 信大の落とした ショウブを使っているとのこと その後上部ガガスって小雨が降った

8月22日　霧 時々雨

B.C.(5:07) — 奥又本谷 —— B.C.(9:35)

1年生は雪上訓練 (キックステップ, グリセード, 横すべり, ピッケルストップ) 及び Fix の通過 2年生は Fix ザイルの固定練習 とにかくこわかったし エラかったし 寒かった 霧が雨になって またこれ以上 天気がよくなりそうにないので 沈殿

8月23日　台風6号による風雨

沈殿

各テント, 浸水などが激しく何度も外へ出て溝を掘り直す Essen 王のポールが曲り ピッケルで応急修理, 全員びしょぬれ 寒かったので夜 酒を飲む

月24日 快晴のち晴れ

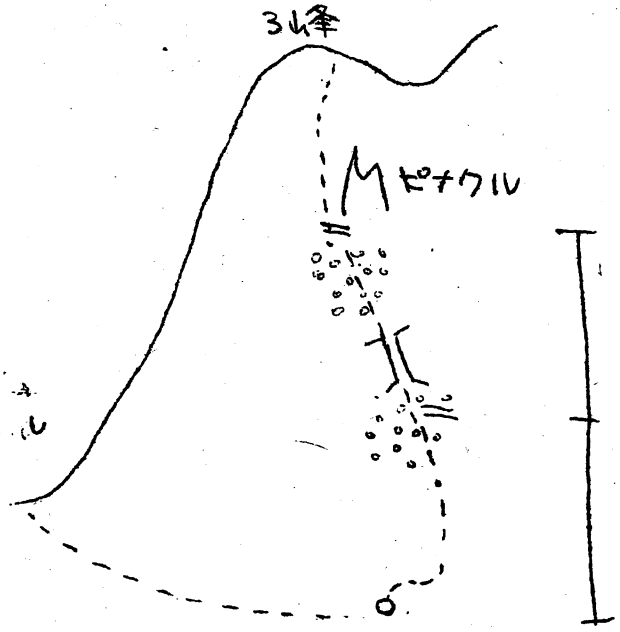
☆パノラマ道を経て最底コルより北尾根縦走隊
L須貝 師田 井上 梶巻 細野

B.C.1 (5:03) — 最底コル (7:35) — 3.4のコル (11:45)
前木 (14:50) — B.C.1 (18:10)

松高尾根パノラマ道を経て最底コルへ そこから 5峰までは はっきりとした道がついているので あまりおもしろくなかった 6山峰 5峰 4峰ではあそびながら登る。3.4のコルでガスが多量に発生 2パーティーに分かれて 3山峰 face 登ハン。前木の頂上に荷を置き Aface 登ハン、登ハンの後 右岩稜パーティーと合流し A沢下降し B.C.1へ

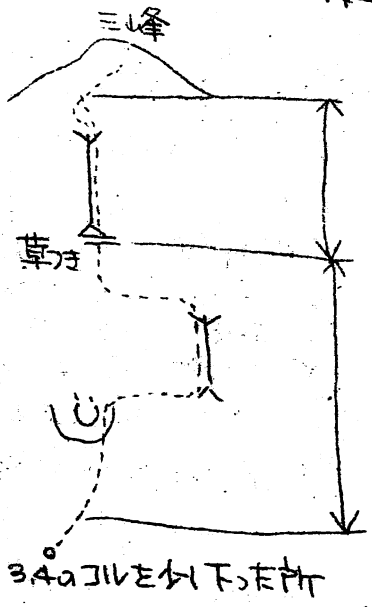
・3山峰 西沢 face L師田 - 梶巻 - 細野
[取付: 12:38
終了: 2:16

1 Pich目 Top師田 安易でルートも豊富 ただしがらがら
2. 〃 〃 この周辺もがらがら.



登るより落石を出さない方が難しい思った ルート自体はやさしいと思います
(梶巻)

○3峰 日本登高会ルート ┗須貝 井上
┃取付 12:20
┗終了 2:00



1 Pichの Top須貝 ハングを越えたのち ハングを越えようとしていたけれど無理だから少し降りたのち トラバースして クラックを登った。

2 Pichの Topを井上がやろうとしたが落ちたので須貝と交たい。

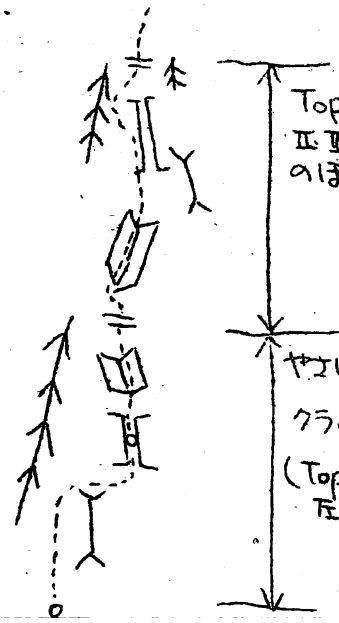
※ これが2級のところだろうな
―井上―

○北壁 Aface

クラックルート
┗1 ノーマルルート
┗2. ↓

須貝 細野 根養
[取付 2:40～3:40]
師田 井上
[取付 3:40～3:40]
2

1.



Topはクラックを乗越す
Ⅱ Ⅲはクラックの左をのぼった

ヤさしい四角
クラック2本
(Top, Secondは2本目のクラックを左にトラバースした)

同じ日に登った北尾根3峰face より浮石も少くスキリしていた

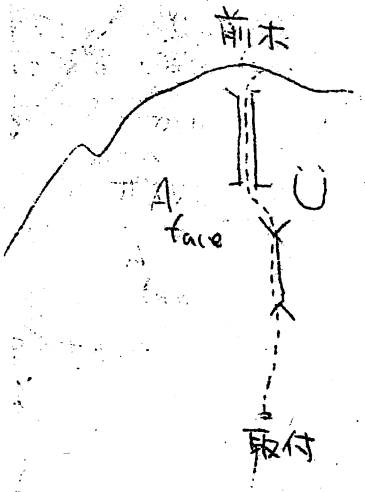
☆ 明神東稜隊 L 吉田 村田 竹山 清川 下田

BC(5:00) — ひょうたん池(6:45) — 明神2峰(8:50)
前木(11:30) — B.C(14:45)

下スロープを強引にトラバースして ひょうたん池の50m位上に
空ザックを置いて ひょうたん池まで往復 のち 明神主峰東稜
を登り 主峰 3峰往復して 前木Peak. A face 登ハン終了後
A沢を下り B.C.まで

- A face
  1 吉田 竹山 清川 (取付 12:40 — 終了 13:15)
  2 村田 下田 (取付 12:30 — 終了 13:10)

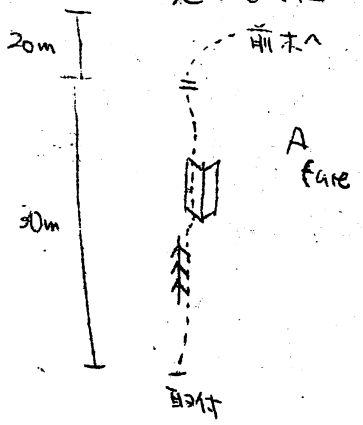
1 ノーマルルート



Top 吉田

2 左カンテルート

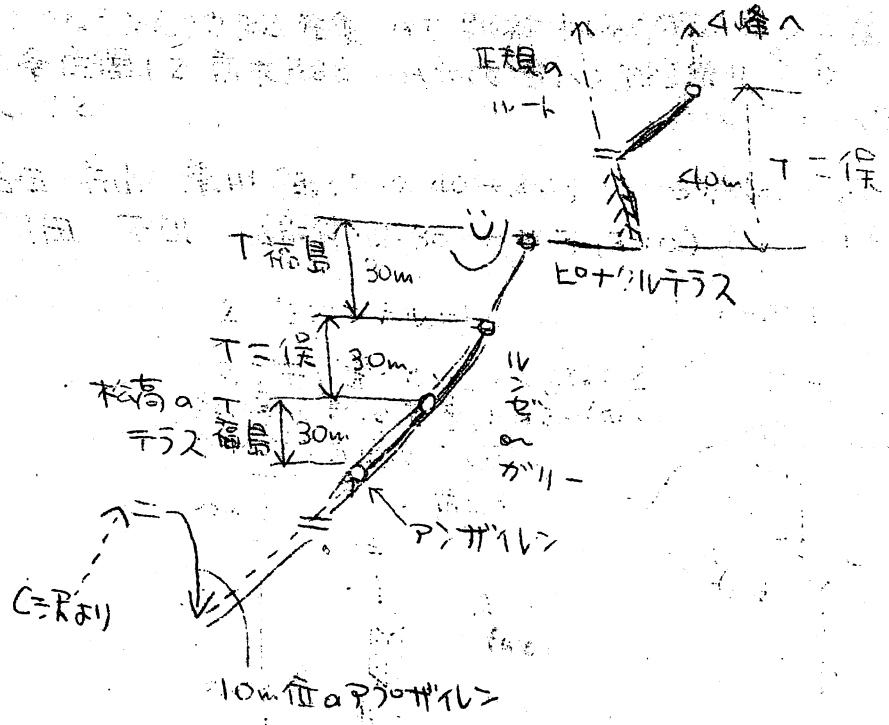
カンテを登るというのじゃなくて
その横のfaceを登ったのでface
クライミングの感じでした



Top 村田
十分 1Pitchで行けた

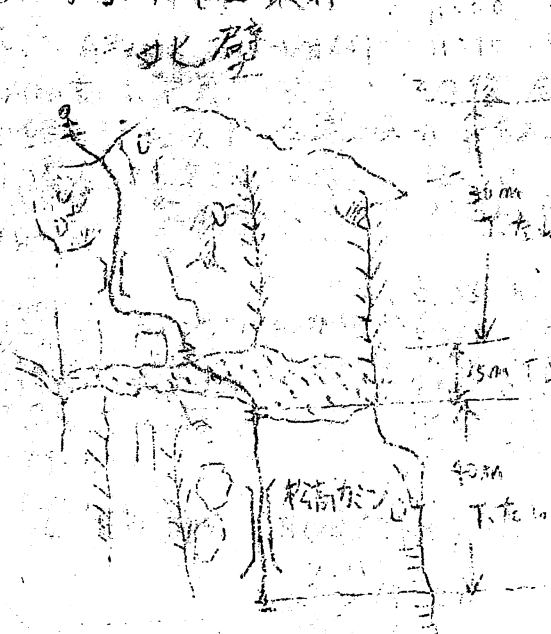
☆ 4峰北条新村～右尚稜 パーティー
L福島 二俣

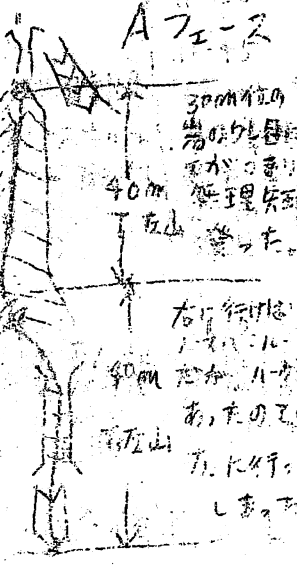
BC (5:10) ― 松高テラス (6:10) ― 4峰の頭 (10:00)
前木 (15:30) ― B.C. (18:15)



8月24日○　北壁～A face　山下、左山 party

5:05 BC発
6:50 北壁基部着
7:10 取付、ザイルをつける
7:55 北壁終了
8:30 A face 取付
9:30 A face 終了
10:30 前ホP着
11:00 B.C.着
12:00 B.C発下山





○腕の力で無理に登っているので、すぐに疲れてしまう。それと、ルートの先の見通しを立てることが、できず北壁A1だから何とか登ったが、他所だったら行き詰まったと思う。

8月25日　○or①or○

4:00 Camp当起床
5:30～5:40 出発

ア. L.村田 福島 下田、清川 片山 で 5.6のコルより北尾根
3.40のコルより { L.村田 片山 で 3山峯 西沢 Face RCCルート
L.福島 下田 清川 で 北壁～A face

イ. L.井上 吉田 二俣 細野 桃巻 で A沢より前ホ
吊尾根より奥ホをへてジャンダルム 飛騨尾根 (たより)

ウ. L 須貝 師田 で 山4峰 の正面壁、北条 新村 ルート
及び、D フェースの田山ルート

エ. 須貝とOBの牧さんとでA face ノルマルルート

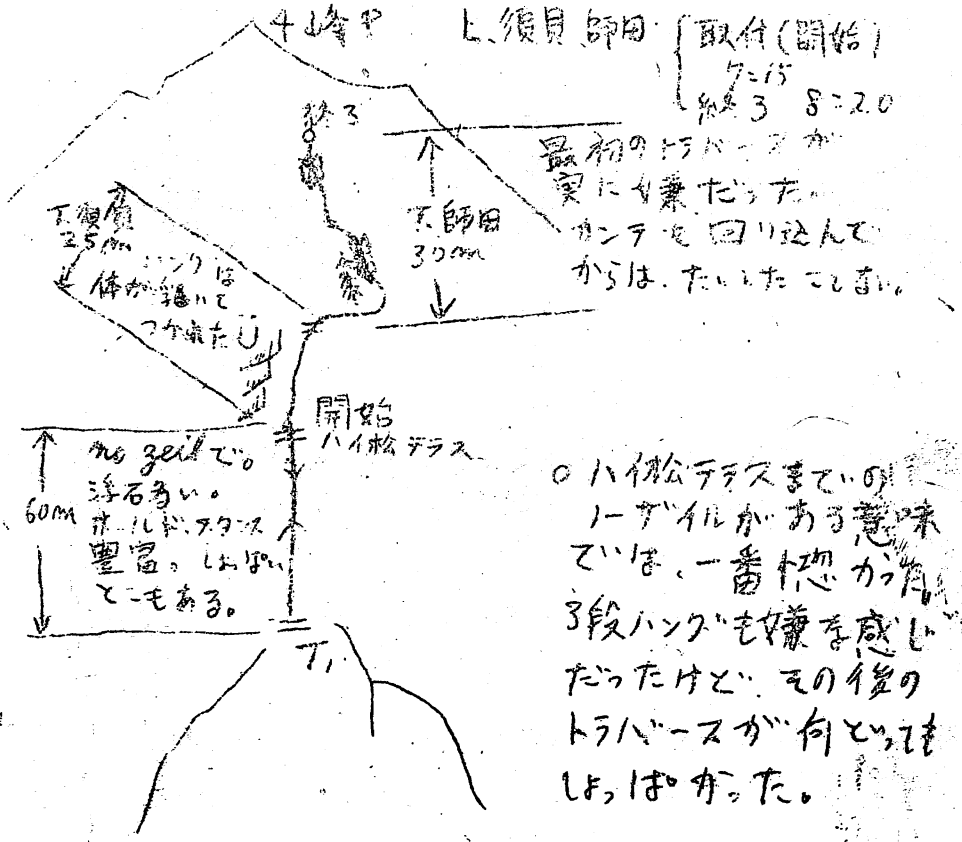
ア、5:37 B.C発
6:51 5.6のコル
7:54 3.4のコルにて2partにわかれて、

3峰涸沢フェースPは、
8:55 取付
11:00 終了
11:15 前ホP
その後、合流時間まで時間が充分あったのでAフェースルート
12:30 Aフェース左ルート取付
1:30 前ホP

北壁～Aフェース P
8:45 北壁取付
11:30 〃 終了
11:45 Aフェース左ルート取付
1:10 前ホP着
3峰涸沢フェースPと合流後
新だ尾根Pと合流して、
2:20 前ホ発
3:15 B.C着

イ、5:35 BC発
6:25 ゴルゲ
7:30 A沢と前ホ直下の尾根
9:05 ロバの耳と馬の背のコル
10:25 セタ 取付 下ホの下
⑥ ここより2partにて登攀
12:00 ジャンダルムのピーク
12:30 コル
14:05 前ホの下
以下アと同じ

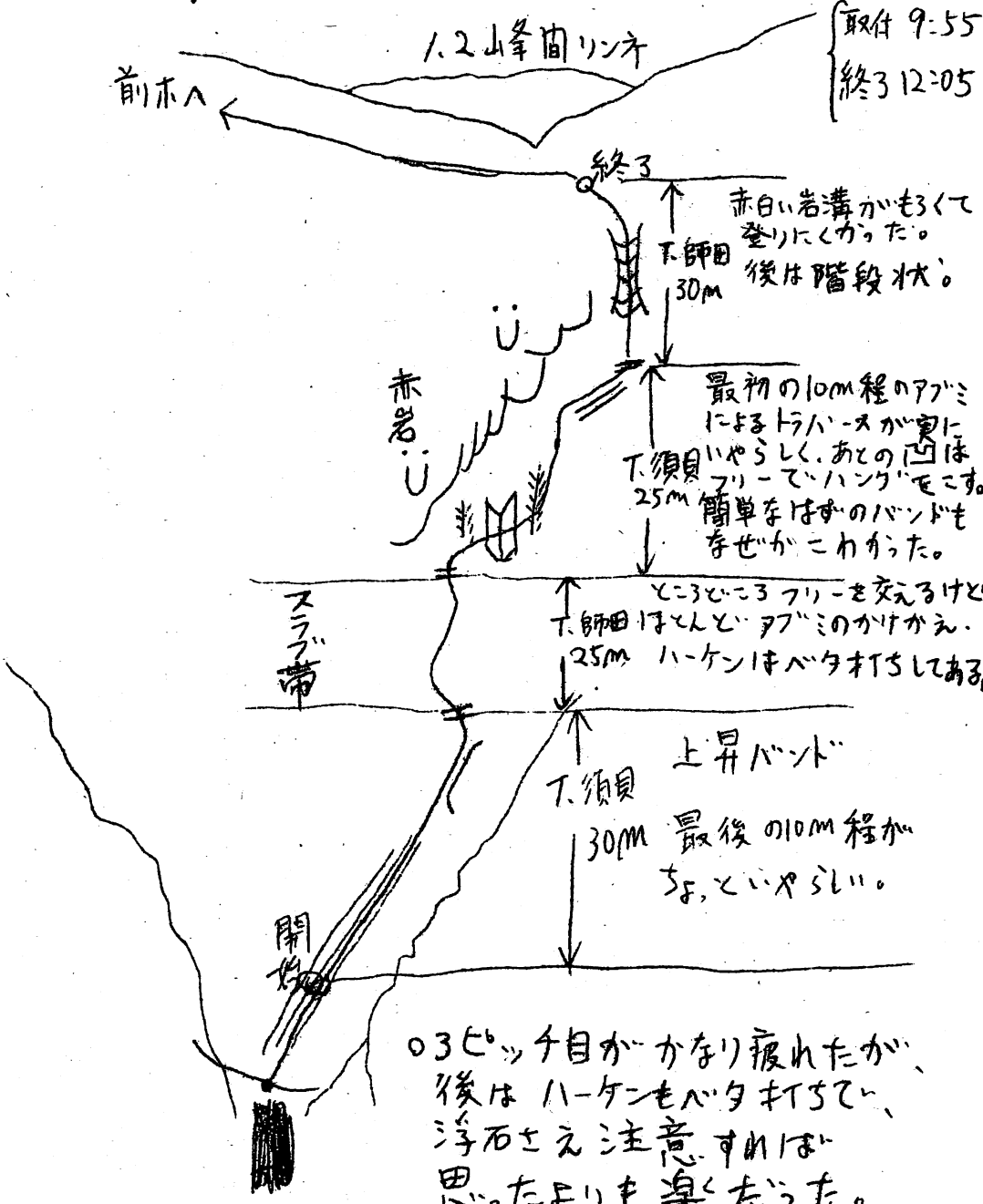
ウ、



○ハイ松テラスまでのノーザイルがある意味では、一番怖かった。3段ハングも嫌な感じだったけど、その後のトラバースが何といってもしょっぱかった。

8月25日

ウ. 彼らは、北条、新村ルートを登ったあと、Dフェース田山ルートを登攀した。天気 ⊙ or ⊙　L. 須貝、師田



○3ピッチ目がかなり疲れたが、後はハーケンもベタ打ちで、浮石さえ注意すれば思ったよりも楽だった。

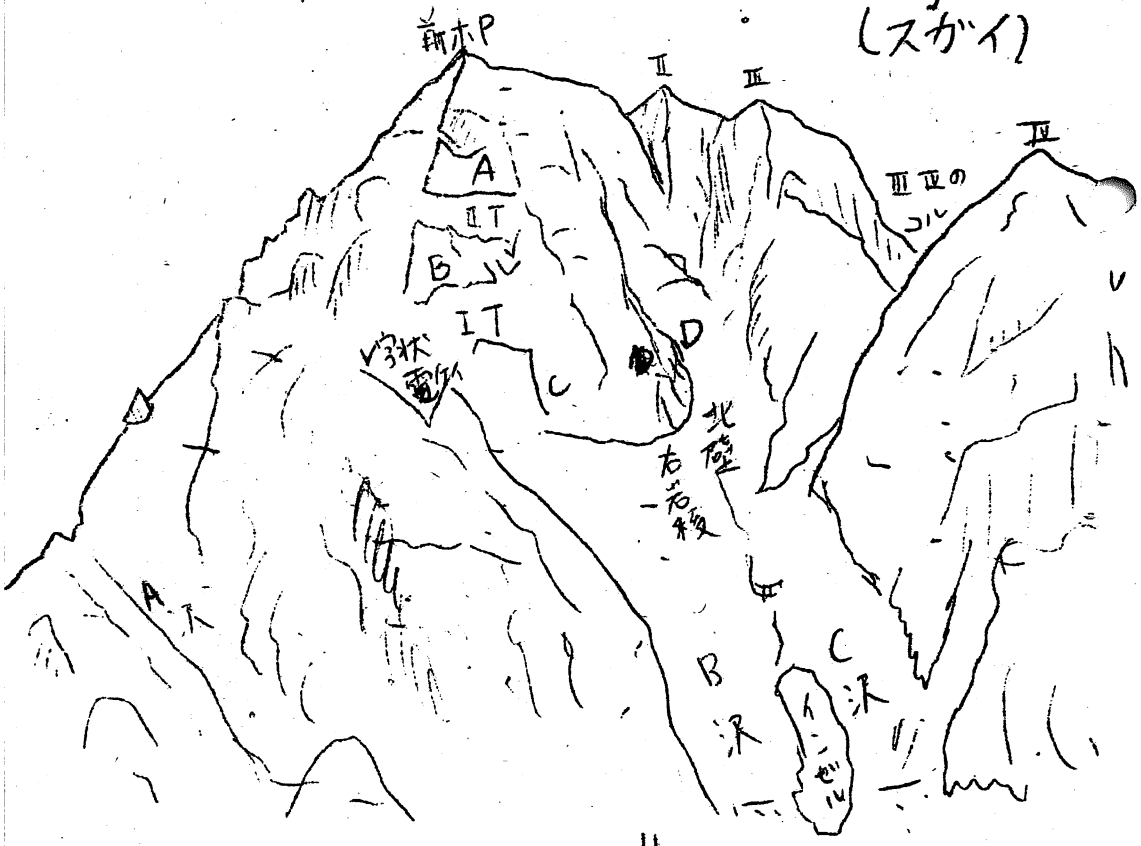
工、

前穂でD face終了後休んでいたら、何もすることがなくて、O.B.の牧氏といっしょにA face ノルマル・ルートを登りました。 ―須貝―

取付 2:30
終了 3:00

1P目 T.牧氏 roofの下に切る。
2P目 T.須貝

5年ぶりの岩の感触だったそうです。
それにしてはあざやかなClimbingでした。
(スガイ)



8月26日

今日の行動内容

ビバーク隊(26~27日) B.C－3.4のコル－涸沢
－横尾本谷－槍沢－槍平－白出沢
－白出のコル－北穂－北穂稜－涸沢
－5.6のコル－B.C
滝谷グレポン～ドーム中央稜
四峰正面 松高ルート
東壁 Dface 都立大ルート

☆ビバーク隊(26日分)

L二俣 飯田 横巻 清川 片山 下田 紅田野

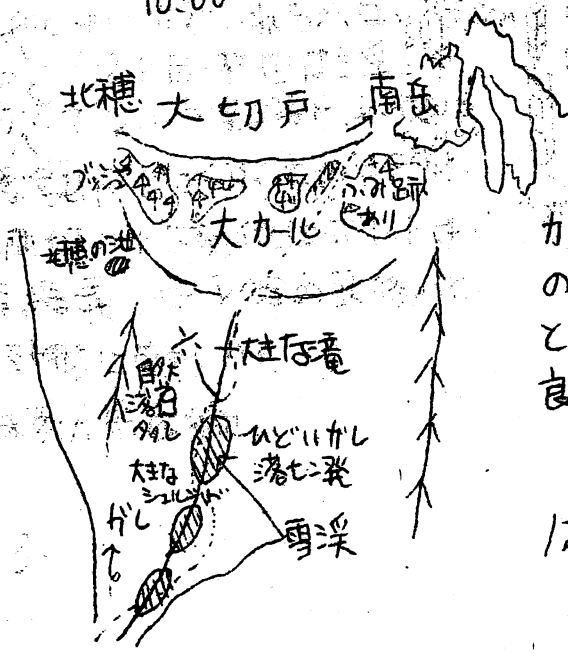
5:03 B.C発　C沢 雪 C沢は雪ク固く急で苦しい

6:50 3.4のコル　小丈晴

8:10~30 涸沢　3.4のコルより横すべりで

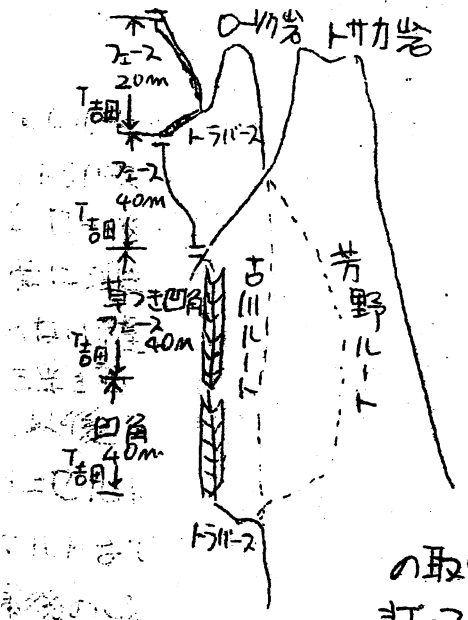
9:08~16 紅野のキジによる 図

10:00 ルートをはずれて横尾本谷にはいる。本谷下部はゴーロを形成 雪渓はシュルンドが多きくしばしばひどいがしへ出る、谷をつめるとすばらしいカールに出る。上からの南岳の景色は一瞬日本の山であることを忘れさせるほど格好の良いものであった。



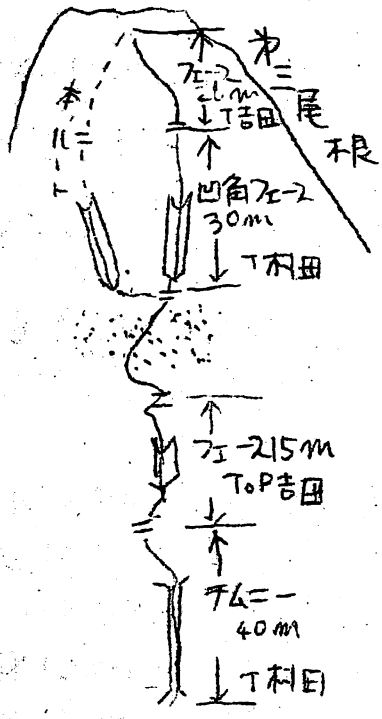
12:37 横尾本谷を抜け、縦走路(七曲)に出る。
ガスが出始める、
13:20 南岳 細野の体調悪し(カゼと疲労)
ガス濃く 視界 5~20m
15:19 飛騨乗越 (ここより槍平へ)
17:15 槍平小屋
17:40 ビバークサイト到着
槍平小屋より30分位下った沢で、蛇を上流にとり
2,3分のところで水が得られるのでビバークサイト決定

☆二重谷 L 吉田・村田 〔B.C 5:10発〕



◇グシポン 曇~晴
取付9:25 終了11:30
:取付除、芳野ルート下のRCCルートに出たと感違いして、左へトラバースし、ローソク岩を登ることなく、ローソク岩の裏へ出てしまった。非常に浮き石が多く手にカが入れられない程であった。2P目 村田は浮き石をつかんで2m程落下、以後TOPを登る気力をなくす。このニセルートの取付には、ハーケン4-5本他にボルトまで打ってあって要注意。ローソク岩の最後のピッチフェースへの取付が非常に難しい。
○その後 ドーム中央末端へ系断続、

◇ドーム中央稜　取付12:15 終了に4時　晴からガス



：後半2ピッチは先行パーティーがいたので右方へルートをとる。

：チムニー上のフェースはスタンス細く、一瞬唖然。真新しいボルトが打ってあるのを見て、怒り、打たきり切る。

：取付へはグレポン終了後三尾根へトラバース。

（記：村田）

☆松高ルート　L須貝・井上

取付6:20 終了9:20　（Topは全部須貝）

5:00 B・C発
6:20 取付
9:20 終了
その後須貝は都立ルートへ
11:10 井上前穂Peakへ
12:30 福島・須貝と合流
13:40 前穂、発
A=Rをへて
14:20 B・C

：松高テラスのすぐ上2mぐらいのところで井上はどうしても登れずもたもたしていた。ゆえにアブミを使って登った。何故かここで1時間も費やしたのです。
それに、井上は松高ルンデもアブミ使用、カラビナではいけそうもなかったため。

（記：井上）

☆ Dface 都立大ルート (福島 須貝

取付 10:35 終了 12:25

こC沢を登ってきて日陰で昼寝をしていたFukushimaと
松高を登って下りてきたSugaiが合流
田山 route の左35~40m位の所から取り付く

1P目 Top. Sugai だるそうに30m這いずり上る。
アブミビレー

2P目 Top. Fukushima スラブ帯(A_1)15mを登り(緩になる所,
終ったところで右にA_1のトラバースと3歩のフリーで
10mのぼる。テラスあり、

3P目 Top Sugai フリー(III)で3m登り、ハング(A_1~A_2)
つづいて四角に入り5m登る(IVのF)
ハング帯につきあたり右上ぎみに1.5m位の
ハングを乗越す(IVのF, A_2) 乗越した後IVのFに
うつる。全体で35m位のびたであろうが、
アブミ体操が主体でルートはまちがう
ことはあるまい。これで6級ルートだって?
アブミなしで登ったら楽いだろうね、RCCエルダ!!

(Reported by Sugai)

8月27日

今日の行動内容

- 北条・新村ルート　北壁Aface
- 甲南ルート
- 右岩壁 正直ルート ～Dface 信大ルート
- ビバーク(後)家に帰着
- 福島氏下山

☆北条新村ルート (L吉田 村田

取付6:30 終了8:10　曇～晴

：2P目3P目は高度感が最高で3P目村田はビビリランニングビレーの連続、

：師田須貝はハイ松テスまでソーガイしだったそうだがついてゆけない。

(記：村田)

☆甲南ルート　L須貝 井上

取付6:45 終了8:35

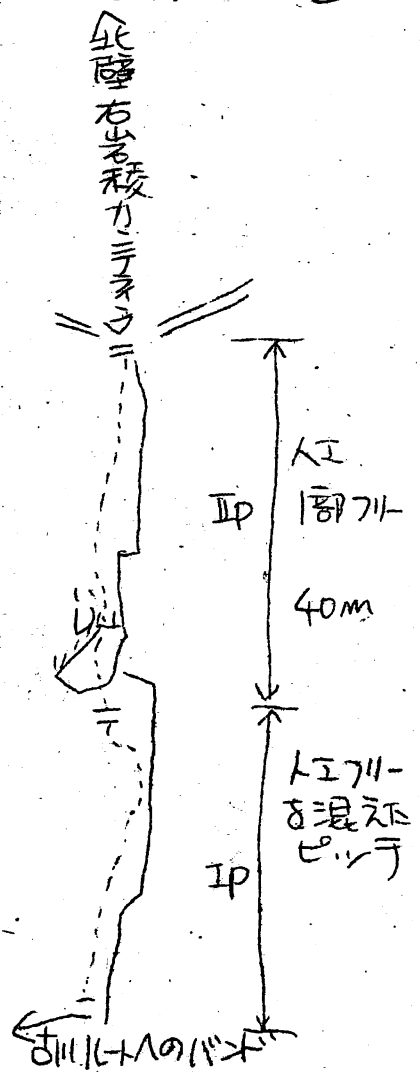
：オーバーハングだとすぐにアブミを使用したほうが安全と考えるようになり、すぐにちょっとやってみたくなる。Top の人に時間をかけて悪いと思ったが、フリーでいくのはどうしても自信がなかった。しかし、アブミに乗るのも日が浅く自信もなかったけど、甲南ルートは快適に登れたと思っている。

(記：井上)

○その後 吉田須貝は右岩壁～Dface へ 村田井上は
北壁～Aface に向かう。

☆右岩稜正直ルート～Dface信大ルート L吉田須貝

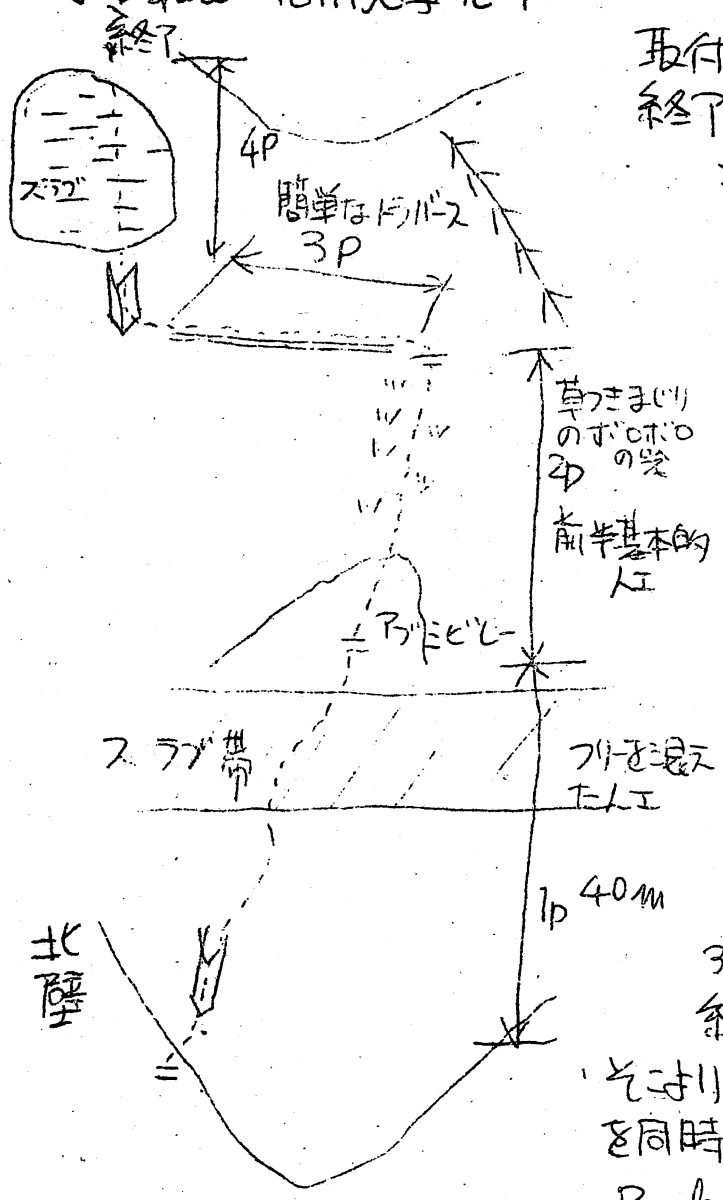
◇右岩稜正直ルート



取付10:00
終了11:15

吉川ルートのハイマツテラスに通ずるバンドをC沢上部からトラバース。
1p目はそこから前面faceの右はしから15m位左の所からA1面Fでアリンコハングの真下の所で終り。(Top吉田)
2p目 2mはり出しているアリンコハングを越え、そこからボルトハーケンによる垂壁を35mのばして終る。(A2～A1)
(Top須貝)

Peak ◇D face 信州大学ルート



図：吉田

取付 11:45
終了 13:45
・北陸中間バンドより110m下のコンタクトラインから取り付く。
・スラブ帯までは立のフリーとA1を混え、スラブ帯の終了から5m上のところでアブミビレー。
(TOP吉田)
・8m位A1で上に登り、草付バンドに出る。そこより30m右上にトラバース終了 (TOP須貝)
・そこよりA face Bカンテを同時登攀で登り、Peak、(記:須貝)

☆ ビバーク隊(2日め 2日分)
6:08 BP発 晴れ、笠ヶ岳を横目で見物しながら出発、
7:25 白出小屋、

8:35 白出沢出合い　白出沢はにはまだ非常に大きい雪渓が壁を形成しもれ立っていて、その間を縫うように水が強い勢いで流れ落ちている。沢の両側には、何とかルンゼと呼ばれそうなルンゼが2-3見うけられた。上部は、長く続くがし場が我々を苦しめた。

11:35 白出のコル　このころからガスがかかり始める。

1:30 北穂小屋　これより東稜経由で三国沢へ、

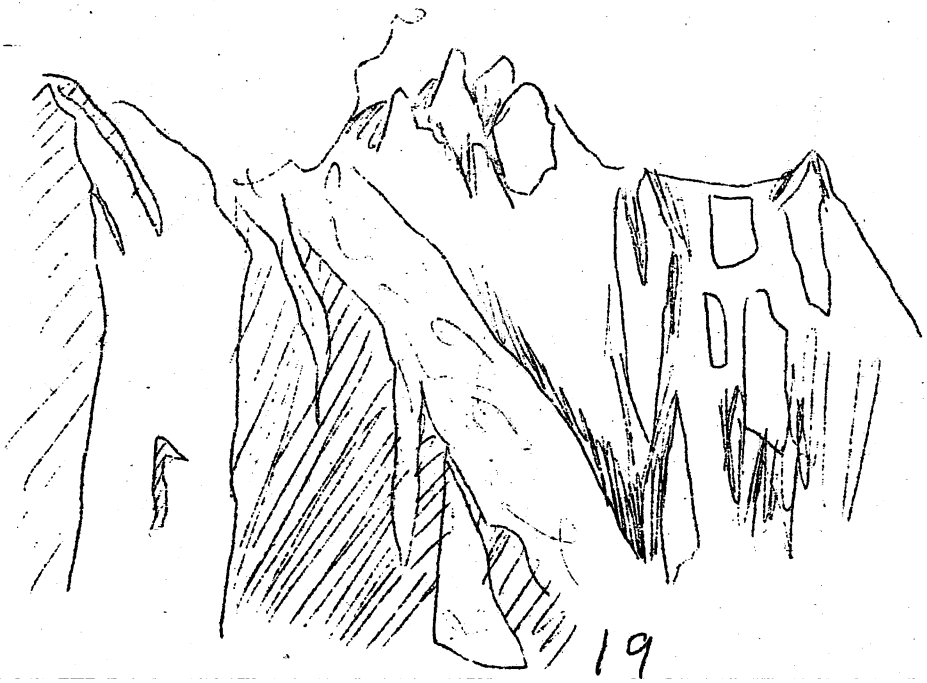
3:35 三国沢ヒュッテ　よりほどより晴れてくる。

4:55 北尾根立ちのコル　再びガスにつつまれる。

5:50 B・C着

☆北壁～A face　L村田・井上

資料がないため省略



8/27 ▷北壁～Aface（ルマル） 村田・井上 11:15～13:15

1pitch目 Top井上

先行パーティの落石に冷や冷やだった。浮き石が多く かなりもろいとこがある。

2pitch目 Top村田

3pitch目 Top村田

オーバーハングの下の凹角をすり抜けるようにしていく。

4pitch目

少しアンザイレンし、その後1ーガイルで4m二ー状のとこを行く。

<感想>

岩がもろいとこはそんなに急傾斜でないからよかった。だいたい北壁は足場がしっかりしているので最初のホールドを注意すれば大丈夫だと思った。

8/28の行動 ○→①

☆北壁Party
- ▷コンタクトルート ⌊須貝、清川、下田
- ▷カミンルート ⌊二候、井上、梶巻⌋

☆前1尾根～B.A face ⌊師田、村田

☆松高party ⌊吉田、片山、飯田

▷前1尾根～B.A face

5:50 B.C.発

6:40 踏み変え点

6:45 前1尾根取付

第1尾根はブッシュ、浮き石が多いがroute finding さえしっかりすれば大したことはない。残置ハーケン5本程発見する

7:40 第1尾根終了

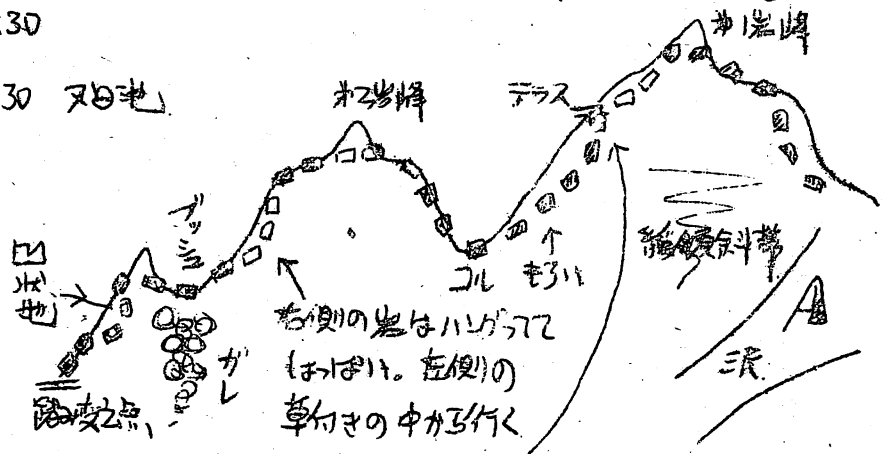
B faceへの取付きの時、A沢よりトラバースするのに高巻きすぎて下れなくなり、結局up(cab)で降りる。ハーケン2本残置

9:25
〜
9:50 Bface 登攀

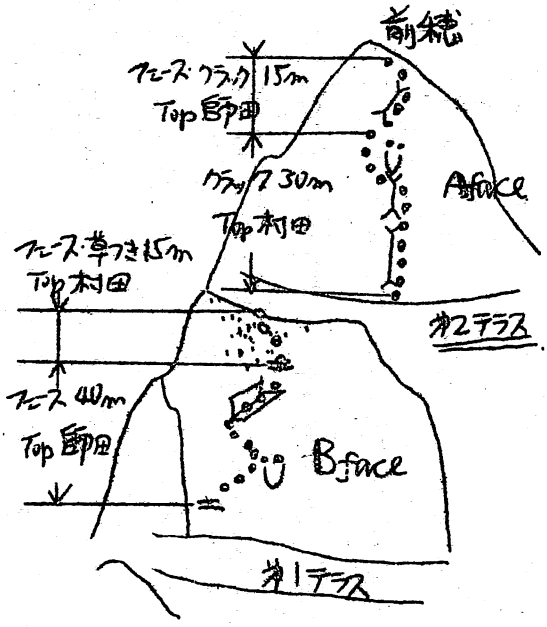
10:05
〜
10:40 Aface 登攀

10:50 前進
〜 Bカンテで清川の落石による下山の事故があったため暫く待つ
14:30

15:30 又白池



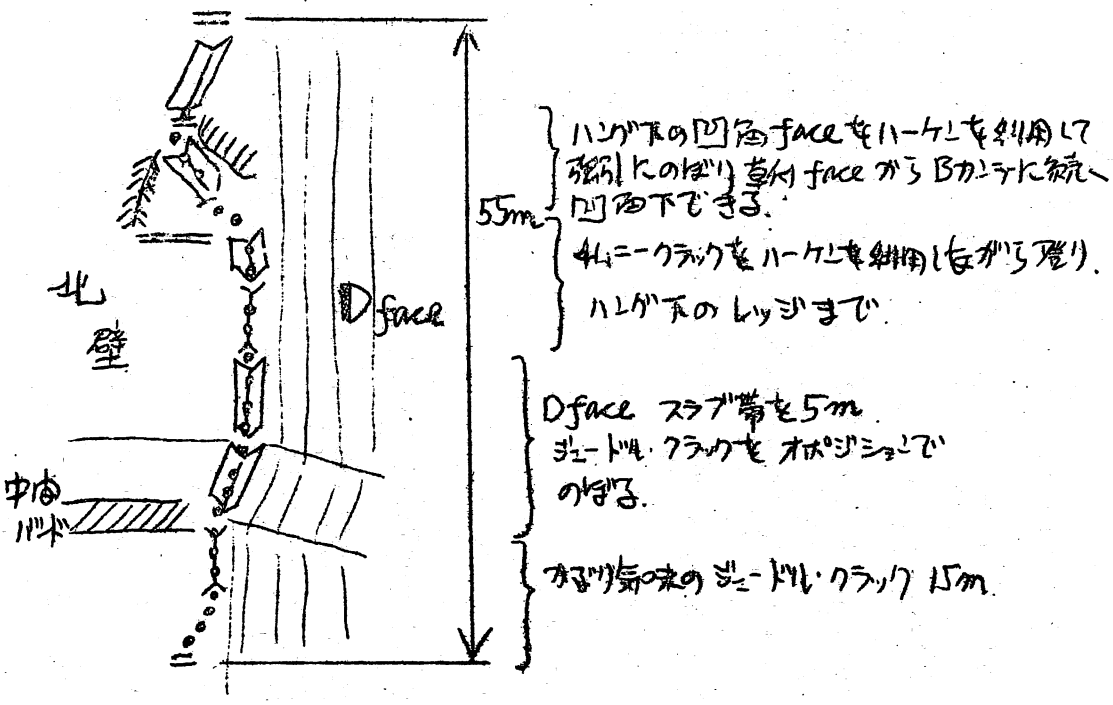
テラスの右手に残置ハーケンがある。テラスの左側のクラックを登る。後はそのまま岩溝を抜けてなしくずし的にPeakに至る。



◎ Bfaceは1ピッチ目 7~8mがpoint. あとは階段状face. 凹面でアンザイレンは1ピッチで消む.

◎ Afaceは クラックルート+俗称駆け足ルート。クラックは 右方にホールドが多く、最終部の左への乗越しが面白い.

▶北壁 contact route ~ Aface (Bkante)



▷ 北壁 カミン route ～ Aface (normal)　7:53～11:10

ザイル order　Top 井上. II 二俣. III 梶浦.

<感想> 北壁～Aface は海石に注意すれば とても快適なルートだったと思います。ことにカミンのあたりで北側の岩壁を望むと 圧倒的な迫力がある。

▷ 四峰正面壁 松高 route

5:45　B.C. 発

6:45　取付きより 登攀開始

最初の2ピッチは草付きに近がついていてグレンデの III 級にはほど遠いのだ。朝の東壁は日がもろにあたって暑かったのでした。

8:10　終了

終了点 ジャンクション Point が登山道なので見学した後 前縁に向かう

8/29　① → ⓪　撤収 下山

昨晩のコンパで全然 酒が減らず 荷物がメチャ重くなったのにはびっくりした。奥又白出合でお墓参りをして上高地へ向かう。

S.T. 到着 1:00　S.T の撤収準備をして解散。

―― おまけ ――

屏風岩 ールンゼ　8/30 ○　L須貝 二俣 師田

5:10 横尾山荷屋

6:00 取付き

5

11:40 終了

最初と最後がエラかった。特に始めの 30m くらいは 1ーザイル だったのに ナゼか 1時間 経ても 分かったノダ。

各係からの反省

○Essen

朝食がおいしく食べられるという事は意外と大切だと思うが、今回も失敗だった。新しい献立を皆で考えましょう。以下今後のために。

- 新しい献立は山行前にうまい作り方を研究すべきだった
- 調味料（塩、コショウ）はもう少し多めに持って行くべきだった
- Essen箱の内容をもっとはっきりしておくべきだった。調味料等はわかりやすくまとめておくべきだった
- 材料の使用量は1人当りで計算し人数によって変る方が無駄がなくてよい

○医療

今回は連絡が行きとどかなくて農学部だけの医療箱で補ったから種類が少く、幸いケガもなかったのであったがどんな山行でも パーティーに最低必要な包帯、切り傷用の薬などを常に持ち歩くべきだった。著名があったとき誰も清潔な布類がなくて困ったが、できるなら個人的に布か包帯を持った方が安全だと思う。 内服薬としては下痢のためのものが圧倒的に必要だとも感じた。今回のはあまりきかなかったのでもっと高級なものを作ってもらうことにしたい

○記録係

今合宿では記録ノートが回らないので困ったというようなく、その点ではよかったと思っている。But一年生へのチェックが充分でなく、ズサンな記録もいくつかあった。総じて一年目はもっと記録というものに熱心に取り組んでほしい。

○装備

今回の合宿では、反省すべき点が多かった。

1. フィックス練習に新しいザイル(9mm φ)を持っていた事。これを落石で使用不可にしてしまった
2. テントのポールが足りず、本来は合掌式ポールのテントにはポールを代用して持って行ったが、これが台風の日の為にまがってしまった。
3. カラビナが足りず個装のビナを集めて使ったが混乱してしまった
4. チーフの下山後(24日以降)2年が1人だったためもあり装備の借し出し、返却がスムーズにいかなかった
5. 下山後の装備の点検が不備であった(ビナの油など)
6. 入山日の朝のEssen具を後Essen具をそのまま忘れてしまったものがあった(ナワシ、ブス板 etc)

ふだんの装備の管理にも問題があるが今度の装備係としても、もっと考えるべきであった。